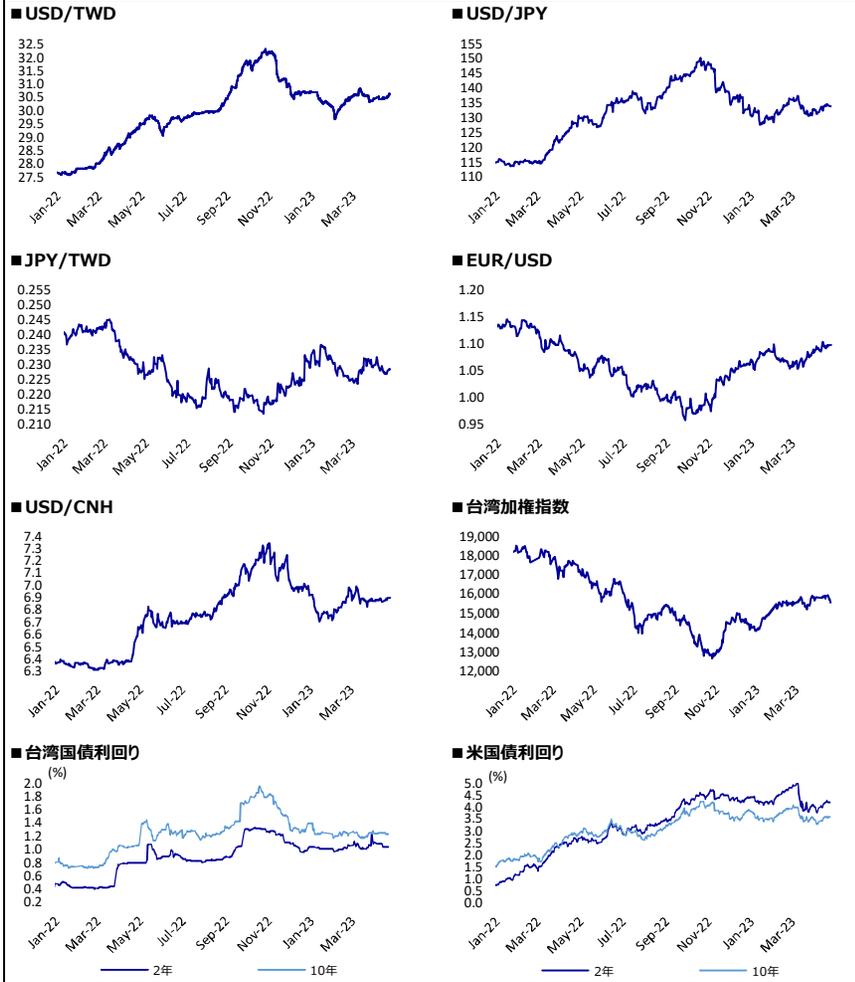


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/17はドル指数が反発したことを受けて30.501とギャップアップしてオープン。ただし、30.5台では輸出企業のドル売りが入り、一時30.467まで下落。しかし、輸入企業のドル買い需要も強く、底値は堅かった。4/18は方向感が出ず30.5ちよど付近で推移していたが、外国人投資家が台湾ドル売りを強めると30.53付近まで上昇。4/19は5月FOMCでの利上げが意識され、台湾株が売られると外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり、30.57付近まで上昇。4/20も台湾株安台湾ドル安の流れから30.6台にのせると輸出企業も様子見し、30.648まで上昇したが、一巡後は30.61付近まで下落。4/21は前日の半導体製造大手の決算を受けて、台湾株が寄り付きから上昇すると、ドル台湾ドルは30.57付近まで下落したが、台湾株の上昇は続かず下落に転じると、台湾ドルも売りが優勢に。30.6台に戻し、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の30.622で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は50.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/17は133.80でオープン後、前週末の流れが継続し、134円台に乗せたが、その後はもみ合う展開に。その後、NY連銀製造業景気指数が予想を大幅に上回ったことから米国経済の底堅さが意識され、ドルが買われると134円台後半まで上昇。4/18は日本株が堅調に推移する中、134円台後半まで続伸。円売り一巡後は133円台後半まで下落したものの良好な米経済指標を材料に134円台に戻した。4/19は英3月CPIが市場予想を上回り、欧米金利が上昇するとドル円も上昇。一時135.14をつけたが、利益確定の売りもあり、134円台後半まで下落した。4/20は5・10日の実需の買いから135円台を目指すも失速。米経済指標も弱い内容が続き、米景気後退懸念からリスクオフの円買いで134円台前半まで下落。4/21は日本の3月CPIが発表されるとコアコア指数が予想を上回ったことから日銀の金融政策変更期待が高まり、円買いが先行し、133円台後半まで下落。しかし、米4月製造業、非製造業PMIともに予想を上回ったことからドルは買い戻され、134円台後半まで上昇したが、上値は重く、最終的に先週比0.3%ドル高円安の134.13で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.680
今週は上値が重い展開を見込む。月末週であり、節目の30.5を超えており輸出企業のドル売りが入りやすい状況にあり、上値を押さえるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-135.00
今週は引き続き、経済指標、イベントに左右される展開となるであろう。注目は植田新日銀総裁の初の金融政策決定会合であるが、今回は現状維持がメインナリオと見られているが、今後の政策への言及次第では大きく相場が動く可能性もあり、警戒したい。

今週の予定

4/24 (MON)	台湾3月鉱工業生産、台湾3月失業率
4/25 (TUE)	米3月新築住宅販売件数、米4月消費者信頼感指数
4/26 (WED)	米3月耐久財受注
4/27 (THU)	米Q1GDP
4/28 (FRI)	日銀金融政策決定会合、台湾Q1GDP、米3月個人所得・収支、米3月PCEデフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。